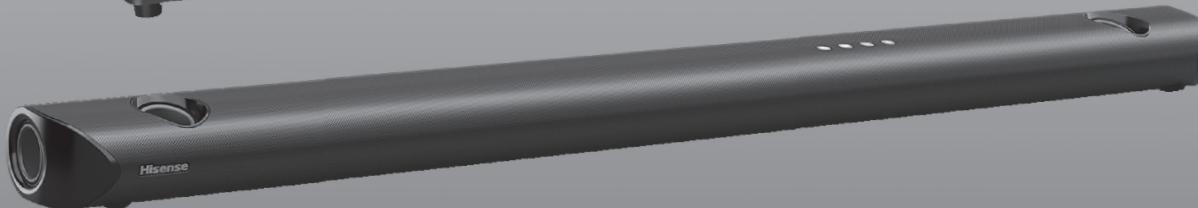


Hisense

5.1.2ch シアターサウンドシステム

HS512

取扱説明書



DOLBY ATMOS®

dts X®

4K HDR

**380w
OUTPUT POWER**

Bluetooth®

HDMI™

お買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意（☞2～7ページ）」は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになった後は、保証書とともにいつでも見ることができる場所に保管してください。

目次

安全上のご注意.....	1	テレビとの接続のしかた	13
警告（電源コード・プラグ）.....	2	HDMI 端子で接続する.....	13
警告（使用）.....	3	光デジタル端子または 同軸デジタル端子で接続する	14
警告（電池）.....	3	AUX 端子で接続する.....	14
警告（移動、設置）.....	4	電源コードの接続.....	15
注意.....	5	ワイヤレスサブウーファーと 本体をペアリングする.....	15
注意（電池）.....	5	基本の使いかた.....	16
注意（廃棄）.....	6	Bluetooth® 機能を使う	17
ライセンスおよび商標などについて	6	USB メモリーを使う	17
サラウンド方式について	6	サポートされるオーディオ入力フォーマット	18
使用上のご注意・お手入れについて	7	サポートされる HDMI ビデオフォーマット	19
内容物を確認する	8	故障かな？！と思ったら	20
各部のなまえ.....	9	主な仕様	21
バースピーカー接続部.....	9	保証とアフターサービス	22
ワイヤレスサブウーファー	10		
リモコン	10		
リモコンについて	11		
設置のしかた.....	12		
設置の方法	12		

安全上のご注意

ご使用の前に本書、特に「安全上のご注意」をよくお読みいただき、正しく安全に使用してください。

この取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。これらは、あなたや他の人々への危害や、財産の損害を未然に防ぐための表示です。危害や損害の内容や程度に応じて、表示を以下のように区分しています。

内容をよく理解していただいてから本文をお読みいただき、記載事項をお守りください。



警告

この内容をお守りいただかないと、人が死亡や大けがに至るような、重大な事故が起こる可能性があります。



注意

この内容をお守りいただかないと、人のけがや財産の損害をまねくことがあります。

図記号の意味

(例)



気をつけていただきたい
という記号です。



してはいけないという
記号です。



していただきたいという
記号です。



安全上のご注意（つづき）



警告（電源コード・プラグ）

 コンセントや配線機器の定格を超える使いかたや、交流 100V (50/60Hz) 以外では使用しない

たとえば配線などで定格を超えると、発熱により火災の原因となります。海外などで異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

 電源コードを傷つけたり、加工したり、ねじったり、引っ張ったり、無理に曲げたり、加熱したりしない

電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線）交換をご依頼ください。そのまま使用すると、コードが破損して、火災・感電の原因になります。

 電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードに傷が付き、火災や感電の原因になることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

 ゆるいコンセントに接続しない

電源プラグは、根本までしっかりと差し込んでください。根本まで差し込んでもゆるみがあるコンセントにはつながないでください。発熱して火災の原因になることがあります。電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

 電源プラグをつなぐのは、他機器との接続が終わってから

コンセントに差したまま他機器と接続すると、感電の原因になることがあります。他機器との接続が終わった後に、電源コードを本機につないでから電源プラグを壁のコンセントに差してください。



電源プラグは定期的にお手入れを

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまつて湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因になります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを取ってください。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れすると、感電の原因になることがあります。



ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因になることがあります。



電源コードに重いものを載せたり、本機の下敷きにしたりしない

火災・感電の原因になります。



他の電源コードを本製品に使用したり、付属の電源コードを他の商品に使用しない

火災・感電・ショートの原因になります。



雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

感電の原因になります。



運搬／移動するときは接続されている線などをすべて外す

本機を運ぶときは、本機に接続されている電源プラグやケーブルなどをすべてはずしてください。電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因になることがあります。



安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告（使用）



分解や改造をしない

内部には電圧の高い部分があり、裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検や修理はお買い上げ店にご依頼ください。



煙やにおい、音などの異常が発生したら、本機の電源を切り、電源プラグを抜く

異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。修理をお買い上げ店に依頼してください。お客様自身による修理は絶対におやめください。



本機を落としたり、強い衝撃を与えない

火災・感電・故障の原因になります。



本機の開口部分に手や指を入れない

けがの原因になります。



内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

内部に水や異物が入ると火災の原因になります。万一、水や異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、修理をお買い上げ店に依頼してください。



長時間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く

火災・ショートの原因になります。



大きな音量で長時間使用しない

聴覚障害の原因になります。



本機の開口部分に金属片や紙片などの異物を入れない

火災・感電・故障の原因になります。

⚠ 警告（電池）



電池を火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱、充電しない

電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



電池はプラスとマイナスの向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れる

間違えると電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



電池を使い切ったときや、長時間使わないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、故障・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



指定以外の電池を使わない。新しい電池と古い電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

警告（移動、設置）

使用・設置場所について

電源コンセントに容易に手が届く場所に置き、何か異常が起こったときは、すぐに電源プラグを抜くようにしてください。

壁に取り付ける場合は、必ず専門の業者に取り付けてもらう

専門業者以外の人が取り付けたり、取り付けが不適切だと、本機が落下するなどして、打撲や骨折など大けがの原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、本機が落ちたり倒れたりしてけがの原因になります。平らで充分に強度があり、落下しない所に置いてください。

水のある場所に置かない

水が入ったり、ぬれたり、風呂場で使うと、火災や感電の原因となります。雨天や降雪中の窓際でのご使用は特にご注意ください。

本機を医療機器の近くに設置しない

医療機器の誤動作の原因になることがあります。



湿気やほこり、油煙、湿気の多い場所や、虫の入りやすい場所、直射日光が当たる場所、ホットカーペットの上や熱器具の近くに置かない

火災や感電の原因となることがあります。銭湯や温泉の脱衣場などに設置すると、温泉に含まれる硫黄などにより、硫化したり、高い湿度で本機が故障したりすることがあります。

屋外や窓際で使用しない

雨水などにさらされ、火災や感電の原因となることがあります。また、直射日光を受けると、本機が熱を持ち、故障することがあります。海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることがあります。

心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から 15cm 以内で使用しない

本機の発する電波により、ペースメーカーや除細動器の動作に影響をおよぼす原因になります。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

- ・逆さまにしない。
- ・棚や押入の中に置かない。
- ・布をかけない。



安全上のご注意（つづき）



注意

!**お手入れのときや、旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグを抜く**

お手入れのときや、本機を長時間使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグを抜いてください。本機はスタンバイにしただけでは、完全に電源からは切り離されておらず、常に微弱な電流が流れています。完全に電源から切り離すためには電源プラグをコンセントから抜く必要があります。コンセントは製品の設置場所に一番近く、抜き差しがしやすい場所を選んでください。

🚫 **電源コードを熱器具に近づけない**

電源コードの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。

!**人が通行するような場所に置かない・コード類は正しく配置する**

電源コードや信号ケーブルは、足に引っかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。人が踏んだり、引っかけたりするようなおそれのある場所を避け、充分注意して接続・配置してください。



!**電源プラグは確実に差し込む**

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全だと発熱したり、ほこりが付着して火災・感電の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触ると感電することがあります。



🚫 **たこ足配線をしない**

火災・感電の原因となることがあります。



🚫 **重いものを置いたり、上に乗ったりしない**

倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。特にお子様やペットにはご注意ください。



🚫 **風通しの悪いところに入れない・密閉した箱に入れない・じゅうたんや布団の上に置かない・布などをかけない**

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



注意（電池）

!**指定された種類の電池を使用する**

間違えると電池の破損・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

🚫 **電池は幼児の手の届くところに置かない**

電池は飲み込むと、窒息の原因となったり、胃などに止まったりして大変危険です。飲み込んだ恐れがあるときは、ただちに医師と相談してください。



🚫 **電池の液がもれたときは素手でさわらない**

- ・電池の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- ・皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に傷害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など傷害の症状があるときは、医師に相談してください。



⚠ **廃棄するときは**

廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

⚠ 注意 (廃棄)



一般の廃棄物と一緒にしない

一般の廃棄物と一緒にしないでください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に本機を捨てないでください。



地域・自治体の条例または規則に従つて廃棄する

● ライセンスおよび商標などについて



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。



HDMI、High-Definition Multimedia Interface およびHDMIロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。



Dolby Laboratoriesからの実施権に基づき製造されています。Dolby、Dolby Atmos、Dolby AudioおよびダブルD記号は、Dolby Laboratories の登録商標です。



DTSの特許については、<http://patents.dts.com>をご参照ください。
DTS Licensing Limitedからの実施権に基づき製造されています。DTS、シンボル、DTS およびシンボルとの組み合わせ、DTS:X、DTS:Xロゴは、米国および/またはその他の国における商標またはDTS, Inc. の登録商標です。© DTS, Inc. All Rights Reserved.

● サラウンド方式について

■ Dolby Atmos®

Dolby Atmos は、オブジェクトベースの最新オーディオコーデックで、従来の 5.1ch スピーカーに加え、ハイトスピーカーを使用し、サウンドが頭上を含むあらゆる方向から流れ、驚くほど鮮明かつ豊かで、細やかな深みのあるこれまでにない素晴らしい体験することができます。

■ DTS: X

DTS: X は、オブジェクトベースの最新オーディオコーデックで、空間を縦横無尽に動き回るような、これまで体感したことのない臨場感を体験することができます。

● 使用上のご注意・お手入れについて

■本製品使用上の注意事項

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、裏表紙の弊社営業所にお問い合わせいただき、混信回避のための処理など（たとえばパーティションの設置など）についてご相談ください。
3. その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して、有害な電波障害が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、裏表紙の弊社営業所までお問い合わせください。

■機器認定について

本製品は、電波法に基づく技術基準適合証明を受けています。本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。使用上の注意に反した機器の利用に起因して電波法に抵触する問題が発生した場合、弊社ではこれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。

- 本機内蔵の無線装置を分解／改造すること
- 本機内蔵の無線装置に貼られている証明ラベルを剥がすこと

(Bluetooth)

2.4 FH 1



「2.4」：2.4 GHz 帯を使用する無線設備

「FH」：変調方式は周波数ホッピング（FH-SS方式）

「1」：想定干渉距離が10 m以内

  ：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

(バースピーカーとワイヤレスサブウーファー間の通信)

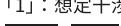
2.4 XX 1



「2.4」：2.4 GHz 帯を使用する無線設備

「XX」：変調方式はその他の方式

「1」：想定干渉距離が 10 m 以内

  ：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

■使用制限

- 日本国内でのみ使用できます。

■通信可能距離

見通し距離約 10 m 以内で通信してください。間に障害物や近くに干渉機器がある場合、または周囲の環境により、通信可能距離は短くなります。

■他の機器からの影響

- 磁場・静電気・電波障害の発生する場所では通信しないでください。また以下の機器の付近で通信すると、通信が途切れたり、速度が遅くなる場合があります。

- ・電子レンジ
- ・デジタルコードレス電話機
- ・その他 2.4 GHz 帯の電波を使用する機器の近く（ワイヤレスオーディオ機器、ゲーム機など）
- ・電波が反射しやすい金属物の近くなど

■外装のお手入れについて

- ・乾いた柔らかい布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布でふきとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
- ・アルコールやベンジン、シンナーを使用すると、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、使用しないでください。
- ・布にゴミが付着したまま強くふいた場合、傷が付くことがあります。

■電磁波妨害に注意してください

- ・本機の近くで携帯電話などの電子機器を使うと、電磁波妨害などにより機器相互間での干渉が起こり、雑音が発生したりすることがあります。

■国外では使用できません

- ・この製品が使用できるのは日本国内だけです。外国では電源電圧が異なりますので使用できません。

This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.

■取り扱い上のご注意

- ・不安定なところに置かないでください。また、絶対に落としたりしないでください。故障の原因となります。
- ・殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり塗装がはげたりすることがあります。

■使用環境について

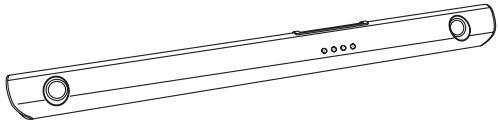
- ・周辺温度は 0 ~ 35°C の範囲内でご使用ください。正しい使用温度を守らないと、故障の原因となります。

■リモコンの取り扱いについて

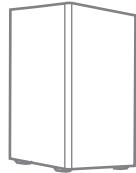
- ・落としたり、踏みつけたり、液体をこぼしたりしないよう、ていねいに扱ってください。
- ・直射日光が当たるところ、暖房器具のそばや湿度が高いところには置かないでください。

● 内容物を確認する

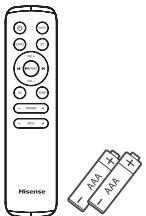
箱を開けたら、以下の内容物がそろっているか確かめてください。



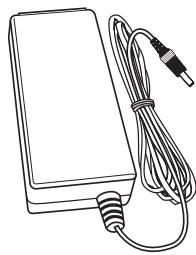
ベーススピーカー × 1 台



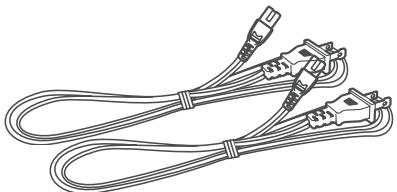
ワイヤレスサブウーファー × 1 台



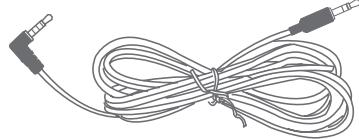
赤外線リモコン × 1 台
単四形乾電池 × 2 本（リモコン用）



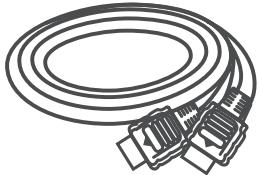
AC アダプター（ベーススピーカー用）× 1 個



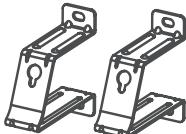
AC（電源）ケーブル × 2 本



3.5mm ステレオミニケーブル × 1 本



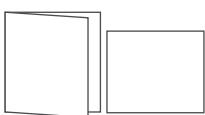
HDMI ケーブル × 1 本



壁掛け用ブラケット × 2 個



壁掛け用ねじ × 2 本



取扱説明書 / クイックスタートガイド × 各 1 部

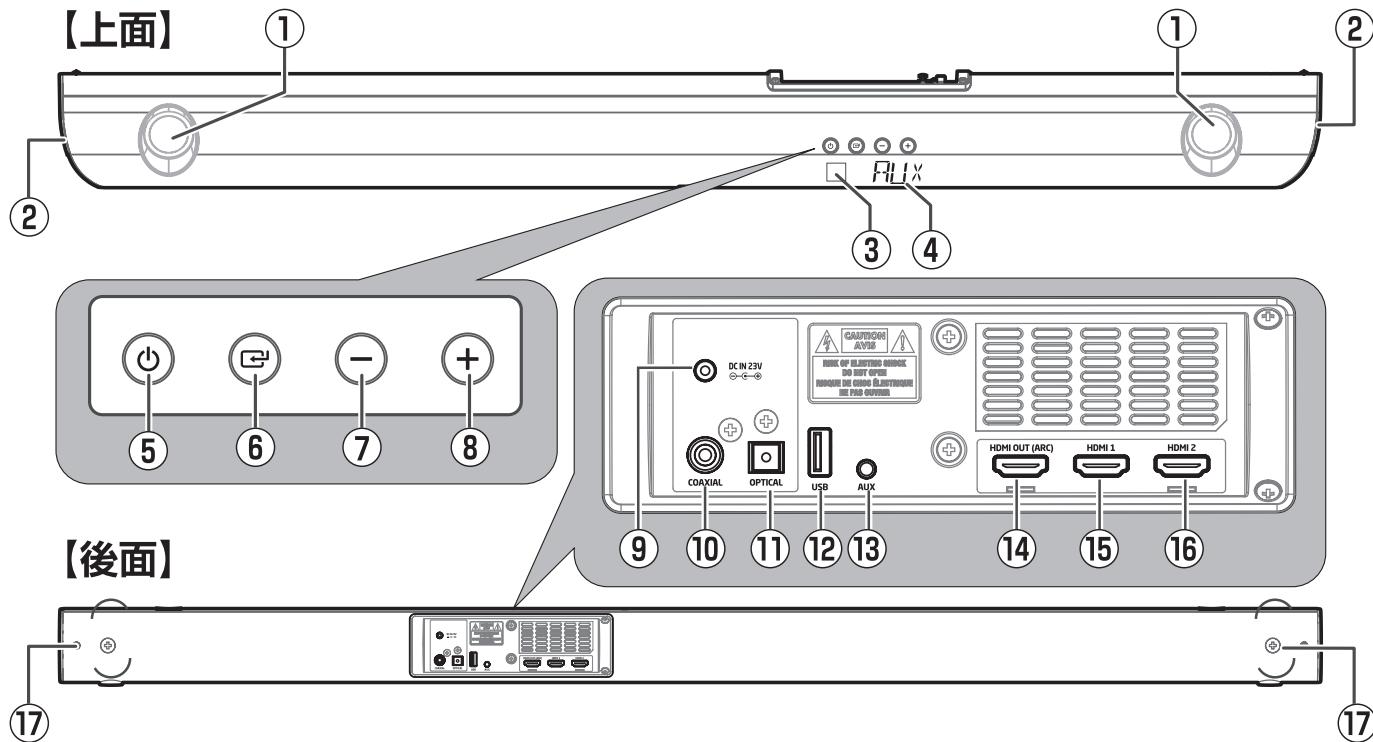
保証書

保証書 × 1 部

※ 製品のデザインと仕様は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

各部のなまえ

バースピーカー接続部



① ハイツスピーカー

② リアスピーカー

③ リモコンセンサー :

リモコンからの信号を受信します。

④ LED 表示ウィンドウ :

現在の動作状況を表示します。

⑤ 電源ボタン :

本機をオンモードとスタンバイモードに切り替えます。

⑥ 音声入力切り替えボタン :

ARC、HDMI 1、HDMI 2、USB、AUX、BT(Bluetooth®)、OPT(光デジタル入力)、COA(同軸デジタル入力) の音声入力を切り替えます。

⑦ 音声-ボタン :

音量を小さくします。

⑧ 音声+ボタン :

音量を大きくします。

⑨ DC 入力 23V 端子 :

バースピーカー用 AC アダプターに接続します。

⑩ 同軸デジタル入力端子

⑪ 光デジタル入力端子

⑫ USB 端子 :

USB メモリー等を差し込んで音楽を再生します。

⑬ AUX 入力端子 :

付属のステレオミニケーブルを使用して外部オーディオ機器に接続します。

⑭ HDMI 出力 (ARC) 端子 :

付属の HDMI ケーブルでテレビに接続します。

⑮ HDMI 入力 1 端子

⑯ HDMI 入力 2 端子

⑰ 壁掛け用ネジ

ネジをはずし、壁掛け用ブラケットに取り付けることで壁に掛けることができます。

ワイヤレスサブウーファー

⑯ AC 入力 :

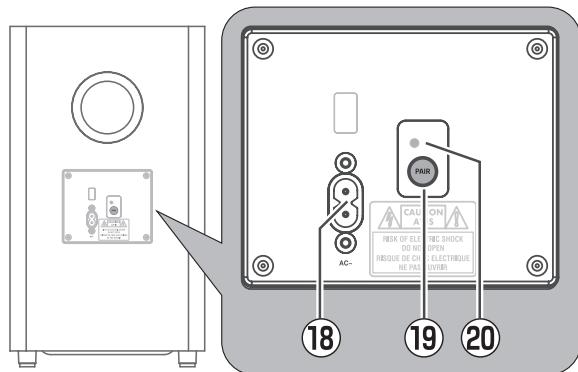
付属の AC (電源) ケーブルを使用して電源に接続します。

⑰ PAIR ボタン :

本体とサブウーファーをワイヤレスで接続するときに使用します。

⑲ ペアリングインジケーター :

ペアリングが成功すると点灯します。



リモコン

㉑ 電源ボタン :

本機をオンモードとスタンバイモードに切り替えます。

㉒ MUTE ボタン :

押すと消音になります。もう一度押すと元の音量に戻ります。

㉓ SOURCE ボタン :

ARC、HDMI 1、HDMI 2、USB、AUX、BT(Bluetooth®)、OPT(光デジタル入力)、COA(同軸デジタル入力) の音声入力を切り替えます。

㉔ BT ボタン :

Bluetooth® モードを選択します。

㉕ VOL + / VOL - ボタン :

音量を大きく / 小さくします。

㉖ スキップボタン :

Bluetooth®/USB モードで前 / 次のトラックにスキップします。

㉗ 再生 / 一時停止 / PAIR ボタン :

Bluetooth®/USB モードで、再生中に押すと一時停止します。もう一度押すと再生を再開します。

押し続けると、Bluetooth® モードでペアリング機能が有効になります。または、既存のペアリングされた Bluetooth® デバイスを取り外します。

㉘ EQ ボタン :

サウンドモードを選択します。

㉙ サラウンド切り替えボタン :

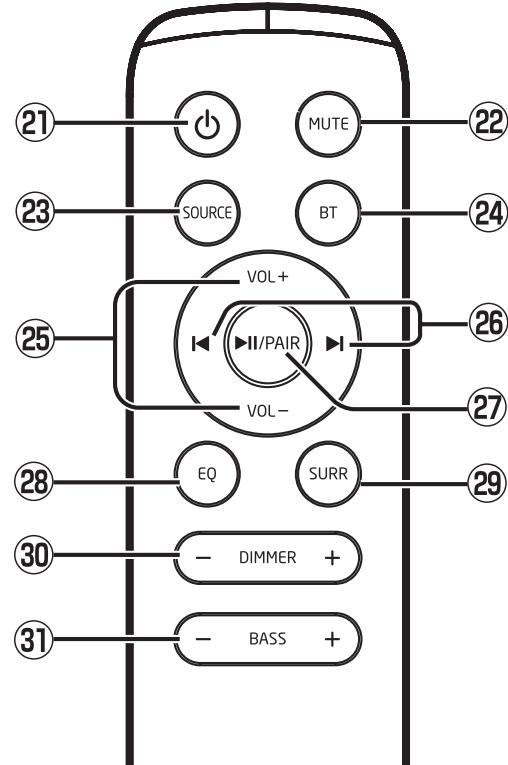
サラウンドのオン / オフを切り替えます。

㉚ DIMMER + / - ボタン :

LED 表示の明るさを調整します。

㉛ BASS + / - ボタン :

重低音レベルを調整します。



リモコンについて

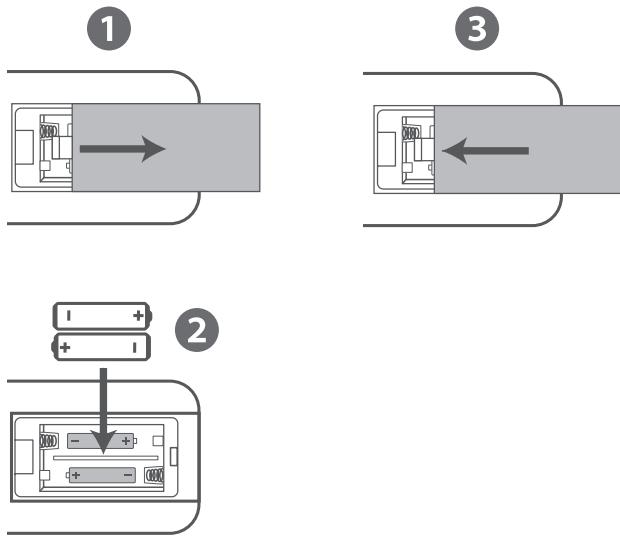
電池の入れ方

- ① 電池カバーを開ける
- ② + 極、- 極の向きを確認し、正しい方向で単四形乾電池 2 本を入れる
- ③ 電池カバーがカチッというまで押して閉める

△ご注意

電池は誤った使い方をすると液漏れや破裂することがあります。特に以下の点に注意してお使いください。

- 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
 - 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
 - 使えなくなった電池はすぐに取り出す。
 - 液漏れした電池は使用しない。
- 漏れた液に触れると肌が荒れことがあります。
万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。



お知らせ

- 付属の電池は動作確認用です。早めに新しい電池と交換してください。
- リモコンを長く使わないときは電池を取り出しておいてください。
- 電池を廃棄するときはお住まいの自治体で定める廃棄方法に従ってください。

操作のしかた

本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

△ご注意

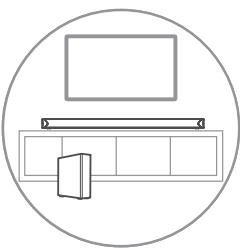
- リモコンには衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり温度の高い所に置いたりしないでください。
- リモコンは直射日光の当たる場所に放置したりしないでください。熱により変形することがあります。
- 赤外線を使用する他の製品の近くで本リモコンを操作する場合や、本製品の近くで他の赤外線を使用するリモコン製品等がある場合、リモコンが正常に動作しないことがあります。また、他の製品が正しく動作しないことがあります。
- 本体のリモコン受光部に直射日光や強い照明が当たっているとリモコンが動作しにくくなることがあります。その場合は照明または本体の向きを変えるか、リモコン受光部にリモコンを近づけて操作してください。
- リモコンを操作してもバースピーカーが動作しない場合は、新しい乾電池と交換してください。

設置のしかた

設置の方法

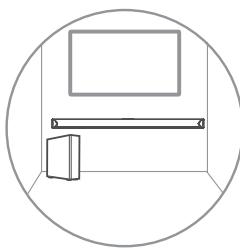
■ ラック等の上に設置する

バースピーカーがテレビ画面の中
心にくるように、水平で安定した
ラック等の上に設置してください。



■ 壁に取り付ける

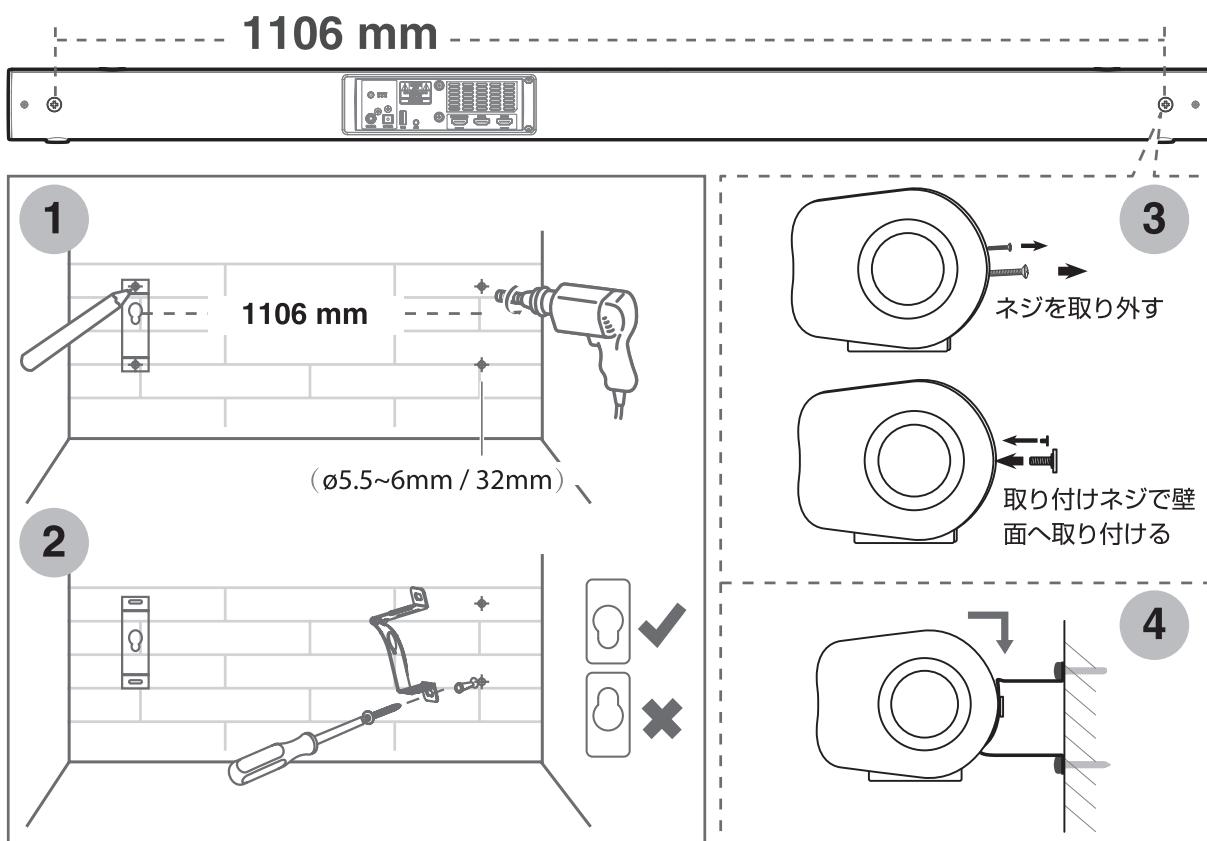
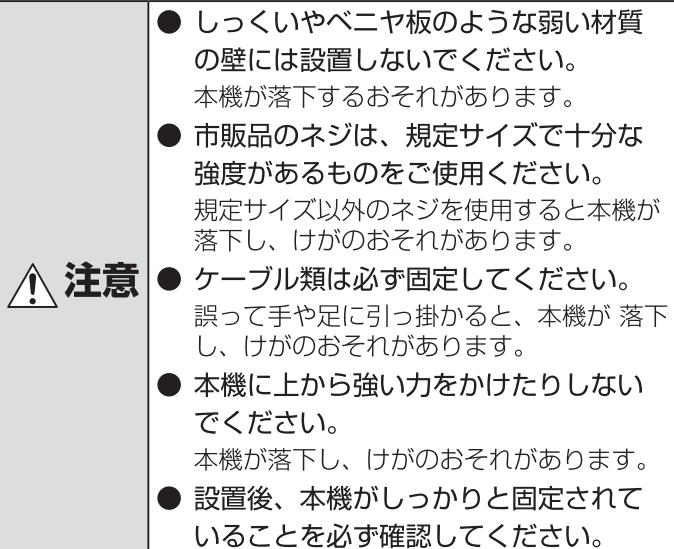
バースピーカーを壁に取り付ける
場合は、必ずお買い上げの販売店
または専門の施工業者に依頼して
ください。



誤った設置により起きた事故につ
いて、弊社は一切の責任を負いま
せん。

【壁取り付け例】

1. 壁に4か所、平行な穴を開けます（壁の種類によってそれぞれΦ5.5～6mmに設定してください）。穴間距離は1106mmです。
2. 必要に応じて、壁の各穴にネジ（市販品）を1本ずつしっかりと固定します。壁に取り付けたブラケットをスクリュードライバー（市販品）を使用して、ネジ（市販品）で固定します。しっかりと取り付けられていることを確認してください。
3. 本機背面のネジを取り外します。壁掛け用ネジを本機の背面に取り付けます。
4. 本機を壁掛け用ブラケットの上に持ち上げて所定の位置に差し込みます。

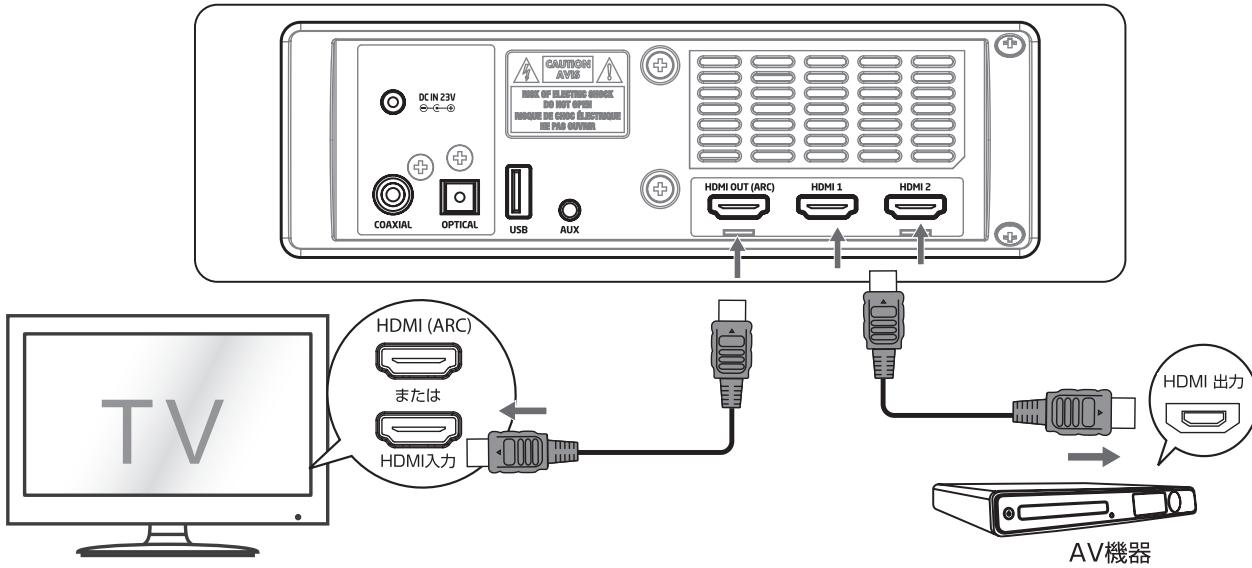


● テレビとの接続のしかた

HDMI 端子で接続する

HDMI ケーブルを使用してシアターサウンドシステムを AV 機器をテレビに接続します。

機器の準備をする



■ ARC (オーディオリターンチャンネル) 対応のテレビと接続する場合

本機の HDMI (ARC) 端子からの HDMI ケーブル (付属品) を ARC 対応テレビの HDMI (ARC) 端子に接続します。

■ ARC (オーディオリターンチャンネル) 非対応のテレビと接続する場合

1. HDMI ケーブル (付属品) を使用して、本機の HDMI 出力端子とテレビの HDMI 入力端子を接続します。
2. HDMI ケーブル (市販品) を使用して、本機の HDMI 入力 (1 または 2) 端子を外部機器 (ゲーム機、DVD プレーヤー、ブルーレイなど) に接続します。

お知らせ

● ARC (オーディオリターンチャンネル)

ARC 機能により、1 本の HDMI ケーブルで ARC 対応テレビから、シアターサウンドシステムにオーディオを送信できます。ARC 機能を楽しむには、ご使用のテレビが HDMI-CEC と ARC の両方をサポートしていることが必要です。正しく設定されると、テレビのリモコンを使用して、シアターサウンドシステム音量出力 (音量 +/ - およびミュート) を調整できます。

- ご使用のテレビで HDMI-CEC と ARC をオンに設定する必要があります。
- HDMI-CEC と ARC の設定方法は、テレビによって異なる場合があります。ARC 機能の詳細については、テレビの取扱説明書を参照してください。

● ARC 機能を使用するには、HDMI ケーブル Ver.1.4 以上が必要です。

● 一部の 4K HDR テレビでは、HDR コンテンツ受信用に HDMI 入力または画像設定を設定する必要があります。HDR ディスプレイの設定の詳細については、テレビの取扱説明書を参照してください。

■ Dolby Atmos®/DTS: X を使用する場合

Dolby Atmos®/DTS: X は HDMI モードでのみ利用可能です。

1. HDMI1 および HDMI2 モードで Dolby Atmos/ DTS: X を使用するには、テレビが Dolby Atmos/ DTS: X または HDMI オーディオパススルーをサポートしている必要があります。
2. 接続されている外部機器 (ブルーレイ /DVD プレーヤー、テレビなど) の音声出力のビットストリームに「エンコードなし」が選択されていることを確認してください。
3. Dolby Atmos®/DTS: X/Dolby Digital/PCM フォーマットを入力すると、バースピーカーに DOLBYATMOS/DTS: X/DOLBY AUDIO/PCM オーディオが表示されます。
4. シアターサウンドシステムが Dolby Atmos®/DTS: X オーディオを使用している場合は、サブウーファーの低音レベルのみ調整できます。他のすべてのサウンドモードは利用できません。

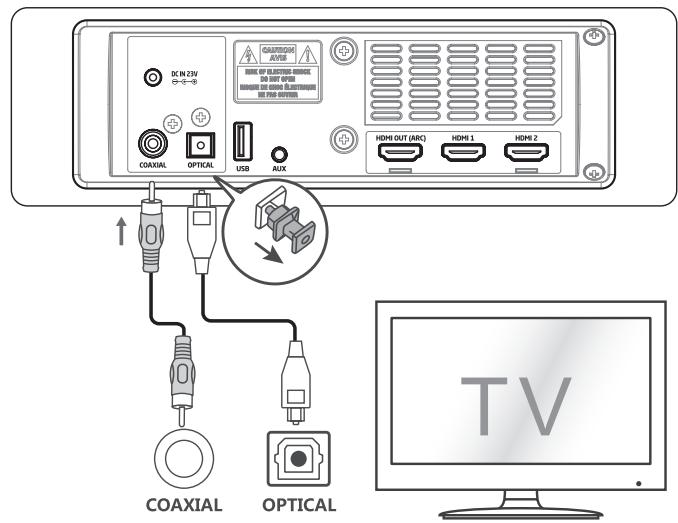
光デジタル端子または同軸デジタル端子で接続する

光デジタル端子から保護キャップを取り外して光デジタルケーブル（市販品）をテレビの光デジタル出力端子と本機の光デジタル端子に接続します。

またはテレビの同軸デジタル出力端子と、本機の同軸デジタル端子を同軸デジタルケーブル（市販品）で接続することができます。

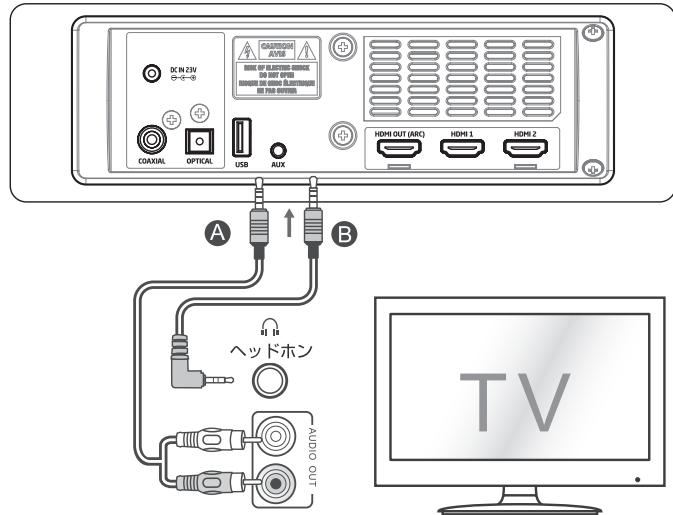
お知らせ

- 光デジタル接続またはHDMI ARCモードで、本機から音声が出ない場合は、入力機器（テレビ、DVD、ブルーレイプレーヤーなど）でPCM信号出力を有効にする必要があります。



AUX 端子で接続する

- 3.5mmステレオミニケーブル（付属品）を使用して、テレビの音声出力端子を本機のAUX端子に接続します。
- 3.5mmステレオミニケーブル（付属品）を使用して、テレビまたはPCなどのヘッドフォン出力端子を本機のAUX端子に接続します。



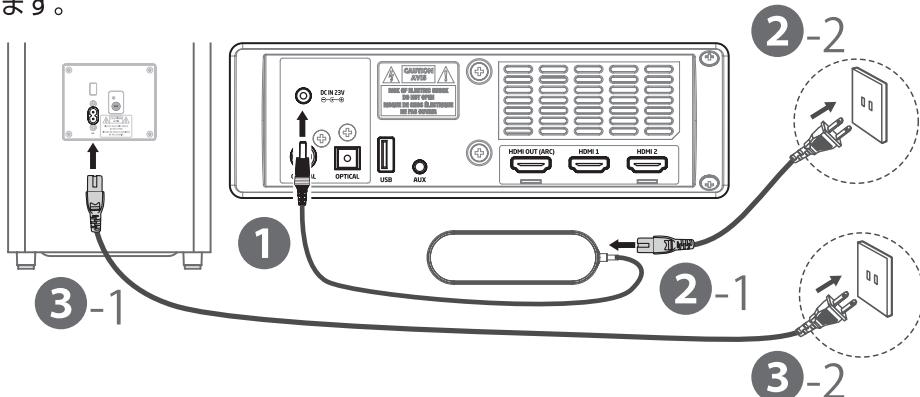
テレビとの接続のしかた（つづき）

電源コードの接続

1. 電源アダプターとバースピーカーの DC IN 23V 端子を接続します。
2. AC（電源）ケーブル（付属品）を電源アダプターに接続して、AC（電源）ケーブル（付属品）をコンセントに接続します。
3. AC（電源）ケーブル（付属品）をサブウーハーの AC 端子に接続して、AC（電源）ケーブル（付属品）をコンセントに接続します。

注意

- AC 電源コードを接続する前に、他のすべての接続が完了していることを確認してください。



ワイヤレスサブウーファーと本体をペアリングする

■ 自動ペアリング

バースピーカーとサブウーファーの電源がコンセントに差し込まれて電源が入ると、サブウーファーとバースピーカーが自動的にペアリングを行います。2つのスピーカーを接続するのにケーブルは必要ありません。

お知らせ

- サブウーファーがバースピーカーとペアリングしているときは、ペインジケーターが速く点滅します。
- サブウーファーがバースピーカーとペアリングされると、ペインジケーターが点灯します。

注意

- 手動ペアリングを行わないときは、サブウーファーの背面にあるペアリングボタンを押さないでください。
- 自動ペアリングに失敗した場合は、サブウーファーとバースピーカーを手動でペアリングしてください。

■ 手動ペアリング

1. すべてのケーブルが正しく接続されていて、本機がスタンバイモードになっていることを確認してください。
2. サブウーファーの背面にあるペアリングボタンを数秒間押し続けます。サブウーファーがペアリングモードに入り、ペインジケーターが速い点滅をします。

3. 本体またはリモコンの ボタンを押して本体の電源を入れます。

ワイヤレス接続が成功すると、ペインジケーターが点灯します。

ペインジケータが点滅している場合、ワイヤレス接続に失敗しています。サブウーファーの電源ケーブルを抜き、3分後に電源ケーブルを再接続してください。手順1～3を繰り返します。

注意

- ワイヤレス接続が再度失敗した場合は、周辺で強い電波の干渉（たとえば、電子機器などからの干渉）がないかを確認してください。電子機器などを遠ざけて、上記の手順を繰り返してみてください。
- サブウーファーとバースピーカーは 6 m 以内に配置する必要があります。
- テレビまたは外部機器が接続されている場合、テレビまたは外部機器の電源を入れると、バースピーカーとサブウーファーのみが自動的にオンになります。
- 本機がサブウーファーと接続されていない場合、オンモードになっていると、電源インジケーターが点滅します。上記の手順1～3に従って、サブウーファーと本体をペアリングしてください。

● 基本の使いかた

スタンバイ / オン

初めて本機をコンセントに接続すると、本機がスタンバイモードになります。電源インジケーターが赤く点灯します。

- 本体またはリモコンの  ボタンを押して 電源オンと電源オフを切り替える

お知らせ

- 本機の電源を完全に切るには、電源プラグをコンセントから外します。
- ARC 機能を搭載したテレビまたは外部機器が接続されている場合、テレビまたは外部機器の電源が入ると、本機が自動的にオンになります。
- 15 分以上経っても本機に入力信号がない場合は、自動的にスタンバイモードに切り替わります。

入力を切り替えて操作する

本機がテレビまたはオーディオ機器に接続されていることを確認してください。

- 1 本体の  またはリモコンの SOURCE ボタンを押して、希望する入力を選択する

以下の順番で切り換わります。

AUX → OPTICAL (光デジタル) → COAXIAL(同軸デジタル) → HDMI1 → HDMI2 → HDMI ARC → USB および BT (Bluetooth[®]) → AUX に戻る

選択した入力が LED 表示ウィンドウに表示されます。

- 2 本体の「+」/「-」ボタンまたはリモコンの VOL+ または VOL を押して、お好みの音量に調整する

お知らせ

- オーディオ機器を直接操作して、再生機能を使用することができます。
- 本機が入力ソースのデジタル音声フォーマットを再生（デコード）できない場合はミュートします。これは故障ではありません。外部機器（テレビ、ゲーム機、DVD プレーヤーなど）の音声設定が、HDMI1/HDMI2/HDMI ARC/OPTICAL/COAXIAL 入力で PCM またはドルビーデジタル（音声設定の詳細については、外部機器の取扱説明書を参照してください）に設定されていることを確認してください。

重低音レベルを調整する

- リモコンの BASS+/-ボタンを押して低音レベルを調整する（低音 +5 ~ 低音 -9）

サラウンドをオン / オフする

- リモコンの SURR ボタンを押して、サラウンドをオンにする。
もう一度押すとサラウンドがオフになる

音量を調整する

- 本体またはリモコンの VOL+ または VOL - ボタンを押して音量を調整する

一時的に音を消す

- リモコンの MUTE を押す

もとに戻すには

- MUTE を再度押す
- 本体の「+」/「-」ボタンまたはリモコンの VOL+ または VOL - を押す

明るさを調整する

- リモコンの DIMMER+/- を押す
LED 表示の明るさを調整できます。

サウンドモードを選択する

- 再生中に、リモコンの EQ ボタンを押すごとに以下のサウンドモードを選択できます。
 - ・ MOVIE： 映画鑑賞におすすめです。
 - ・ MUSIC： 音楽鑑賞におすすめです。
 - ・ NEWS： ニュースを聴く場合におすすめです。
 - ・ NIGHT： 夜の静かな時間におすすめです。

音声遅延の設定

映像処理をするとき、音声処理より時間がかかることがあります。これを音声遅延と呼びます。Audio Delay(音声遅延) 機能はこのような音声遅延を調整することができます。デフォルトでは、音声遅延は 0 に設定されています。

- 1 再生中に SURR ボタンを長押しして、音声遅延設定モードに入る

LED 表示ウィンドウに LATENCY SET とスクロール表示されます。

- 2 VOL+ または VOL を押す

10ms 単位で遅延時間を調整することができます。最大で 600ms まで設定できます。LED 表示ディスプレイは 0 ~ 60 で表示されます。対応する時間は 0 ~ 600ms となります。

- 3 ▶/II /PAIR ボタンを押すか、そのまま 10 秒間、何も操作しないと音声遅延モードは終了する
設定した数値は記憶されます。

お知らせ

- 遅延時間の設定は、各音声入力それそれに設定して記憶することができます。（例えば HDMI ARC の音声入力で遅延時間を設定した場合、HDMI ARC の音声入力に切り替えたときのみ、設定した遅延時間が適用されます。）

● Bluetooth® 機能を使う

Bluetooth® 機器をペアリングする

Bluetooth® 機器が A2DP (アドバンストオーディオディストリビューションプロファイル) をサポートしている場合は、シアターサウンドシステムで Bluetooth® 機器に保存されている音楽を聞くことができます。

初めて Bluetooth® 機器を本機に接続する場合は、ペアリングする必要があります。

- 1 本機のオンモード中にリモコンの **SOURCE** ボタンを押して Bluetooth® モードを選択するか、本体の **□** ボタンを押して、Bluetooth® モードを選択する

本機がどの Bluetooth デバイスともペアリングされていない場合は、ディスプレイに「NO BT」と表示されます。

- 2 Bluetooth® 機器を起動して、検索モードを選択する

Bluetooth® 機器のペアリングリストに「HS512」と表示されます。本機が見つからない場合は、リモコンの **▶II /PAIR** ボタンを押し続けて検索できるようにしてください。

- 3 ペアリングリストで「HS512」を選択する

Bluetooth® 機器が正常に接続されると LED 表示ウインドウに「BT」が表示されます

。

Bluetooth® 機器から音楽を聞く

- 1 Bluetooth® 機器を本機とペアリングする
(上記参照)

● USB メモリーを使う

- 1 USB メモリーを差し込む

- 2 リモコンの **SOURCE** ボタンを押して USB モードを選択するか、本体の **□** ボタンを押して USB モードを選択する

再生が自動的に始まります。再生を一時停止 / 再開するには、リモコンの **▶II /PAIR** ボタンを押してください。

・前のトラックまたは次のトラックにスキップするには、リモコンの **◀/▶** ボタンを押します。

- 2 接続された Bluetooth® 機器から音楽を再生する

Bluetooth® 機器が AVRCP (オーディオビデオリモコンプロファイル) をサポートしている場合、付属のリモコンを使用して再生をコントロールできます。

- ・再生を一時停止 / 再開するには、リモコンの **▶II /PAIR** ボタンを押します。
- ・前のトラックまたは次のトラックにスキップするには、リモコンの **◀/▶** ボタンを押します。

Bluetooth® 機能をオフにするには

- 1 本機の他の入力に切り替える

- 2 接続している Bluetooth® 機器の Bluetooth® 機能を無効にする

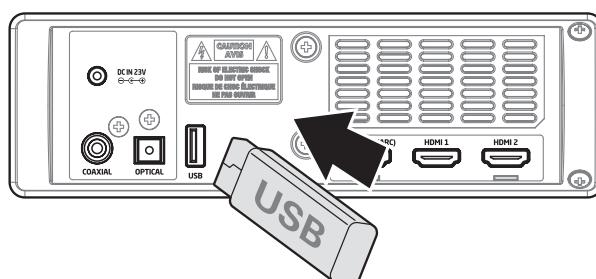
- 3 リモコンの **▶II /PAIR** ボタンを長押しする

お知らせ

- 必要に応じてパスワードに「0000」を入力してください。
- Bluetooth® 機器が 2 分以内に本機とペアリングしない場合、本機は以前接続したネットワークに自動的に接続します。
- Bluetooth® 機器が通信範囲を超えて移動した場合、通信は切断されます。再接続したい場合は、通信範囲内に置きます。
- Bluetooth® 機器との接続が失われた場合は、上記の手順に従って Bluetooth® 機器と本機を再度ペアリングしてください。

お知らせ

- 本機は最大 32GB の USB メモリーをサポートしています。
- 本機は MP3 を再生することができます。



● サポートされるオーディオ入力フォーマット

本システムでサポートされているオーディオフォーマットは以下の通りです。

オーディオフォーマット	入力端子			
	HDMI1/ HDMI2	ARC	OPTICAL (光デジタル)	COAXIAL (同軸デジタル)
LPCM 2ch	○	○	○	○
LPCM 5.1ch	○	—	—	—
LPCM 7.1ch	○	—	—	—
Dolby Digital	○	○	○	○
Dolby TrueHD	○	—	—	—
Dolby Digital Plus	○	○	—	—
Dolby Atmos - Dolby TrueHD	○	—	—	—
Dolby Atmos - Dolby Digital Plus	○	○	—	—
DTS	○	○	○	○
DTS-ES Discrete 6.1/DTS-ES Matrix 6.1	○	○	○	○
DTS 96/24	○	○	○	○
DTS-HD High Resolution Audio	○	—	—	—
DTS-HD Master Audio	○	—	—	—
DTS-HD LBR	○	—	—	—
DTS:X	○	—	—	—

○：サポートされているフォーマット。

—：サポートされていないフォーマット。

注：

- HDMI 入力1/HDMI 入力2は、スーパー・オーディオCDやDVDオーディオなどのコピー防止がかけられたオーディオフォーマットをサポートしていません。

オーディオフォーマットと本機の表示

以下のオーディオフォーマットを入力すると、本機には次のように表示されます。

オーディオフォーマット	本体表示	オーディオフォーマット	本体表示
LPCM 2ch	PCM	DTS-ES 6.1 Matrix	DTS-ES MTX
LPCM 5.1ch	PCM	DTS-ES 6.1 Discrete	DTS-ES DSCRT
LPCM 7.1ch	PCM	DTS 96/24	DTS 96
Dolby Digital	DOLBY AUDIO	DTS 96/24 ES Matrix	DTS 96 ES MTX
Dolby TrueHD	DOLBY AUDIO	DTS Express	DTS EXPRESS
Dolby Digital Plus	DOLBY AUDIO	DTS-ES 8-Channel Discrete	DTS ES DSCRT
Dolby Atmos - Dolby TrueHD	DOLBY ATMOS	DTS-HD High Resolution	DTS-HD HI RES
Dolby Atmos - Dolby Digital Plus	DOLBY ATMOS	DTS-HD Master Audio	DTS-HD MA
DTS	DTS AUDIO	DTS:X	DTS:X
DTS Discrete Surround	DTS AUDIO	DTS:X Master Audio	DTS X MA

● サポートされる HDMI ビデオフォーマット

本システムでサポートされているビデオフォーマットは以下の通りです。

解像度	フレームレート	3D	色空間	色深度	[HDMI 信号フォーマット] の設定	
4K 4096 × 2160p(※3) 3840 × 2160p	50/59.94/60Hz	-	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 ビット	[拡張フォーマット](※1)	
		-	YCbCr 4:2:2	8/10/12 ビット		
		-	YCbCr 4:2:0	10/12 ビット		
	23.98/24/25/ 29.97/30Hz	-	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	10/12 ビット		
4K 4096 × 2106p(※3) 3840 × 2106p	50/59.94/60Hz	-	YCbCr 4:2:0	8 ビット	[標準フォーマット](※2)	
	23.98/24/25/ 29.97/30Hz	-	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4	8 ビット		
		-	YCbCr 4:2:2	8/10/12 ビット		
1920 × 1080p	25/29.97/30/50/ 59.94/60Hz	-	RGB 4:4:4 YCbCr 4:4:4 YCbCr 4:2:2	8/10/12 ビット		
	23.98/24Hz	◎				
1920 × 1080i	50/59.94/60Hz	○				
1280 × 720p	50/59.94/60Hz	○				
	23.98/24/29.97/ 30Hz"	-				
720 × 480p	59.94/60Hz	-	RGB 4:4:4	8/10/12 ビット	[標準フォーマット](※2)	
720 × 576p	50Hz	-				
640 × 480p	59.94/60Hz	-				

○: サイドバイサイド (ハーフ幅) ※3 フォーマットの 3D 信号に対応

- : サポートされていないフォーマット。

注 :

※1 18Gbps をサポートする高速で高品質な HDMI ケーブルを使用してください。

※2 高速で高品質な HDMI ケーブルを使用してください。

● 故障かな？！と思ったら

ご使用中に異常が生じたときは、つぎの点をお調べください。それでも正常に戻らないときは、ただちに電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店または弊社サポートセンターにご連絡ください。

こんなとき	お調べいただくこと／なおしかた
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none">● AC 電源ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。● リモコンまたはバースピーカーの  ボタンを押して、シアターサウンドシステムをオンにしてください。
音が出ない	<ul style="list-style-type: none">● リモコンの MUTE または VOL+/VOL- ボタンを押して、シアターサウンドシステムが消音になっていないか確認してください。● 本機またはリモコンの  ボタンを押して、バースピーカーをスタンバイモードに切り替えます。次に  ボタンをもう一度押してバースピーカーをオンにします。● バースピーカーとサブウーファーの AC ケーブルの両方をコンセントから外し、もう一度差し込みます。シアターサウンドシステムをオンにします。● デジタル（HDMI、OPTICAL、COAXIAL など）接続を使用する場合は、外部入力機器（TV、ゲーム機、DVD プレーヤーなど）のオーディオ設定が PCM またはドルビーデジタルモードに設定されていることを確認してください。● サブウーファーをバースピーカーの近くに移動してください。サブウーファーがバースピーカーから 6 m 以内にあることを確認してください（近いほど安定します）。● バースピーカーとサブウーファーの接続が切れた可能性があります。「ワイヤレスサブウーファーと本体をペアリングする」（15 ページ）の手順に従って、本機を再ペアリングしてください。● 本機は入力ソースのデジタル音声フォーマットを再生（デコード）できない場合はミュートします。これは故障ではありません。
リモコンが動作しない	<ul style="list-style-type: none">● 再生ボタンを押す前に、まず正しい入力を選択してください。● リモコンと本機の距離を短くします。● 電池は 2 本とも「+」、「-」の極性表示通りに正しく挿入してください。● 電池を交換してください。● リモコンを本体前面のセンサーに向けてください。
音と映像がズレる	<ul style="list-style-type: none">● テレビと 4K パススルーで接続している場合は、テレビの設定を低遅延モードに設定してください。設定方法は、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
サブウーファーのペアリングインジケータが点灯しない	<ul style="list-style-type: none">● AC 電源ケーブルをコンセントから抜き、4 分後にもう一度差し込んでサブウーファーを起動してください。
Bluetooth® 機器で本機の Bluetooth® 名が見つからない	<ul style="list-style-type: none">● Bluetooth® 機能が Bluetooth® 機器で有効になっていることを確認してください。● 本機と Bluetooth® 機器を再ペアリングしてみてください。

主な仕様

この製品は日本国内専用です。外国では電源電圧が異なるため使用できません。

品名	シアターサウンドシステム		
型番	HS512		
スピーカーレイアウト	スピーカー構造	5.1.2ch	
	スピーカー構成	バースピーカー	
スピーカー ユニット (バー)		サブウーファー	
		スピーカーユニット数	
		エンクロージャータイプ	
		ユニットサイズ	
スピーカー ユニット (サブウーファー)	フルレンジ	振動板素材	
		サブウーファータイプ	
		エンクロージャータイプ	
		ユニットサイズ	
	インピーダンス (ohms)	3	
スピーカーグリル	スピーカーグリル (バースピーカー)	グリルタイプ	
		グリル素材	
	スピーカーグリル (サブウーファー)	グリルタイプ	
		グリル素材	
入出力	HDMI	入力端子数 / 出力端子数	
		HDMI 連動	
		HDMI CEC 連動	
		4K Ultra HD パススルー	
		HDR 伝送	
	光デジタル	対応	
	USB	対応	
	Bluetooth®	ver.4.2/A2DP, AVRCP	
	同軸デジタル	対応	
	AUX	対応	
再生フォーマット	HDMI ARC	Dolby Atmos-Dolby Digital Plus /Dolby Digital Plus/ Dolby Digital/LPCM 2ch/DTS/DTS-ES Discrete6.1/ DTS-ES Matrix6.1/DTS 96/24	
	HDMI 1/HDMI 2	Dolby ATMOS-Dolby TrueHD/Dolby Atmos-Dolby Digital Plus/Dolby TrueHD/Dolby Digital Plus/Dolby Digital/LPCM 2ch/LPCM 5.1ch/LPCM 7.1ch/ DTS/DTS-ES Discrete6.1/ DTS-ES Matrix6.1/DTS 96/24 /DTS-HD High Resolution Audio/DTS-HD Master Audio/DTS-HD LBR/DTS :X	
	光デジタル入力	Dolby Digital/LPCM 2ch/DTS/DTS-ES Discrete6.1/ DTS-ES Matrix6.1/DTS 96/24	
	同軸デジタル	Dolby Digital/LPCM 2ch/DTS/DTS-ES Discrete6.1/ DTS-ES Matrix6.1/DTS 96/24	
	USB	MP3/WMA/WAV	
	Bluetooth®	SBC	
	実用最大出力 (JEITA)	380W	
実力最大出力 (JEITA)	フロント	25W+25W	
	センター	25W+25W	
	リア	25W+25W	
	ハイト	25W+25W	
	サブウーファー	180W	
	サウンドモード	Movie/Music/Sport/News/Night	
サウンド機能	消音	対応	
	サラウンド ON/OFF	対応	
	BASS 調整	対応	
	電源	AC 100V	
電源	電源周波数	50/60Hz	

消費電力	消費電力 待機電力	バー：69W/ サブウーファー：80W バー：0.5W/ サブウーファー：0.5W
付属品		リモコン / 単4形乾電池 / ACアダプター / AC(電源)ケーブル / 取扱説明書 / クイックスタートガイド / 壁掛け用ブラケット / 壁掛け用ネジ / HDMIケーブル / 3.5mmステレオミニケーブル
寸法 (幅×高さ×奥行き) (mm)	バースピーカー サブウーファー	1200 x 73 x 110 240 x 420 x 240
質量 (kg)	バースピーカー サブウーファー	4 5.25

※仕様の一部を予告無く変更することがありますのでご了承ください。

保証とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではご利用いただけません。

This theater sound system is designed only for use in Japan and cannot be used in any other countries.

保証書について

本機には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、販売店よりお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をよくお読みいただき、大切に保存してください。

本体の保証期間は、お買い上げの日から1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」をご参考いただき、故障かどうかお調べください。

それでも具合が悪いときは

弊社サポートセンターへお問い合わせください。

●電話によるお問い合わせ

受付時間：月曜～金曜 9:00～18:00
(祝祭日、年末年始、夏季休業期間を除く)

フリーダイヤル：**0120-835-111**

●FAXによるお問い合わせ

FAX番号：**0570-06-1117**(有料)

※お客様のご連絡先、型番、購入年月日、お買い上げ店、故障状況を詳しく記載してください。

●メールによるお問い合わせ

電子メールでのお問い合わせは <https://www.hisense.co.jp/contact/> のお問い合わせのページで受け付けています。お客様のご連絡先、型番、ご購入年月日、お買い上げ店、故障状況を詳しく記載してください。

※サポート受付に関しては変更させていただく場合がございます。

弊社ホームページでサポート時間などをご確認の上、ご利用されるようお願いいたします。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

本機の不具合・修理など、何らかの原因で、本機のメモリーに保存されたデータが破損・消滅した場合など、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合においても、当社にて記録内容の修復は致しません。あらかじめご了承ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

補修用性能部品の保有期間 8年

この商品の補修用性能部品は、製造元が製造打ち切り後8年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。



ハイセンスジャパン株式会社
〒212-0058 神奈川県川崎市幸区鹿島田1丁目1番2号
<http://www.hisense.co.jp>

本書に記載されている内容は、予告なく変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

本書の内容を無断で転載、コピーすることは禁止されております。

© Hisense Japan Corporation